

答 辞

日ごとに暖かさを感じられるようになって参りました。

本日私たちの卒業式にご参列の皆様、また、準備して下さった皆様方、誠に有難うございます。この春うららかな日に、皆様の暖かいまなざしに囲まれて卒業式を迎えられますことを大変嬉しく、有り難く思います。

さて、私達がこの逗子開成に入学して三年間、一番大きく変わったのは世界が大きく広がったことです。先ず、この学校に入学する為に塾に通い、自分より断然勉強ができる人達と出会いました。更に、中学校では広範囲から生徒が集まってくるから、自分の世界が家の近所という狭い地域から、神奈川県という県のレベルにまで広がりました。また、学校行事や部活動などで県外に出て、時間の流れ方、周囲の風景の違いなどを実感しました。そしてつい先日、NZ研修旅行で、日本国内から世界に出ることとなったのです。

このNZ研修では、生活習慣・食べ物・そこに住んでいる人々など、同じ所は無いのではないかという位、日本とは違う所だけで驚きました。行きの飛行機やオークランド市内観光の間では不安だった英語も、ランギトットカレッジとの学校交流や二日間のホームステイの間に、どうにか会話ができるようになっていました。海外はとてもハードルの高いように思っていたのですが、それ程でもないように感じるようになっていました。正直に言えば調子に乗っていたのです。

けれどもそれは違いました。帰国の前日、全員が集まる機会に校長先生の仰ったお言葉が、私にそれを気づかせてくれました。校長先生はこう仰いました。「君たちは、海外なんて楽なものだ、と思っているかもしれないが、それは違う。君達は誰かに守られている。君達の代わりに頭を下げたり尻ぬぐいをしてきている人がいる。君達も大人になったら、そういう人達になって欲しい。」と。とても衝撃的でした。自分の甘い考えを見透かされているような気さえし、そんな考えを持った自分をとっても恥ずかしく思いました。自分たちは守られていて、支えられていたのだと気付いたのです。

今思い返してみると、NZ研修にも様々なハプニングがありました。

体調を崩したり、迷子になったりした人もいました。飛行機やバスの中に携帯やパスポートを忘れてきてしまった人もいました。その都度、対応して下さったのは添乗員さんや先生方でした。

また入国審査や税関の手続きなど、様々なことを事前に教えてもらったりして、無事に過ごせていたのです。ホームステイではペアになった友達と乗りきり、英語のコミュニケーションをとることも少しはできました。このように、自分で乗り越えて自信を持てるようになった部分も勿論ありますが、しかし同時に、今後、一人でできなくてははいけないものが多いことにも気づきました。そういう意味では、本当に今の自分たちを見直すことのできた意義のある研修旅行でした。

もう一つ、この研修から、得ることのできたものがあります。

「celebrate the difference」。つまり、違いを祝福するということです。これはランギートットカレッジの学校交流の修了式の中で、ある先生の仰った言葉です。NZ研修が楽しく思えたのは、日本と同じ所がない位、あまりにも違ったからなのだ、と。

振り返ってみれば、外国との関係ばかりではなく、学校内の活動でも同様でした。この三年間、合唱コンクール、体育祭、部活動など、何か一つの団体として行動することが何度かありました。では、最初からその団体が同じ目標に向かって、同じ方向を向いていたことがあったでしょうか？

正直に言えば無かったように思います。きっとみんながまとまって同じ方向を向くまでには、立場や意見の違いから色々とぶつかったことでしょう。そうやってぶつかっていく中で、団体としての方向性が決まり、目標に向かっていったのではありませんか？ 時には、他人とは違うから辛い思いをすることもあったでしょう。ですが、違いが無ければみんなだまとまってやりきったという達成感は無く、思い出にも残らなかったはずです。このことは、いっしょに行事をやってきてくれた中二の皆様も同じように感じているのではないかと思います。

視点を変えれば、違うから面白いと考えることもできるはずです。その違いは有意義であると気づけたのも、NZ研修の大きな収穫でした。

また、在校生の皆様にも、他人とぶつかり合うことを恐れずに、わかり合えるまでぶつかりあって相手との違いを理解し合い、その違いを大事にし合っていて欲しいと願っています。

そして、今の私達より、更に充実した中学生を送って下さい。

さて、話しを冒頭に戻しますが、私達は周囲の様々な人に支えられています。それは幸運なことではありますが、私達も段々と大人になり、その支えてくれている人達に近づこうとしています。今まで私達はたくさん支えられてきましたが、次は私達の番です。誰か他の人を支えていけるように、人間の土台の部分の大きさを大きくしていくこと。これこそが、今後の高校生活で課題とすべきことだと信じています。

最後になりましたが、今まで見守って下さった家族や、先生方、職員の方々、ご来賓の方々、協力して下さった在校生の方々への感謝を込めて、答辞とさせていただきます。

平成二七年三月二十日

卒業生代表 熊谷尚弥